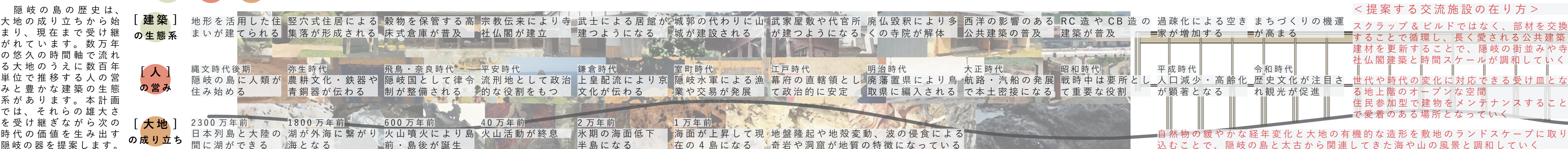


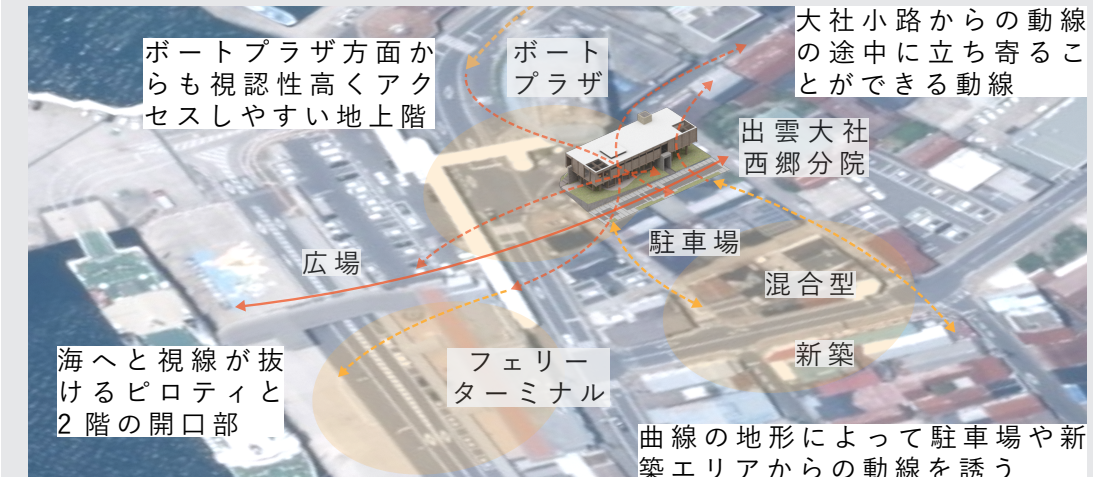
大地の雄大さをモチーフに地上階は地形のような起伏で人々を緩やかに施設内へと誘います。緩やかな傾斜によって様々な方向からアプローチが可能にすることで、直線的な参道に対して動線のバリエーションを与えます。グリッドのないランドスケープに対して建築は1820モジュールの構造的な佇まいにすることで、大地のうえに建築が浮いているように見せ、地上階では人々の豊かな営みが街の風景を彩ることを意図しました。建築の柱梁架構はプレカットとせず、ボルトの付け外しで架構1本単位で交換できるようにすることで、更新しながら長く愛される隠岐の思い出の場所となります。

時代と世代を受け継いでいく隠岐の器

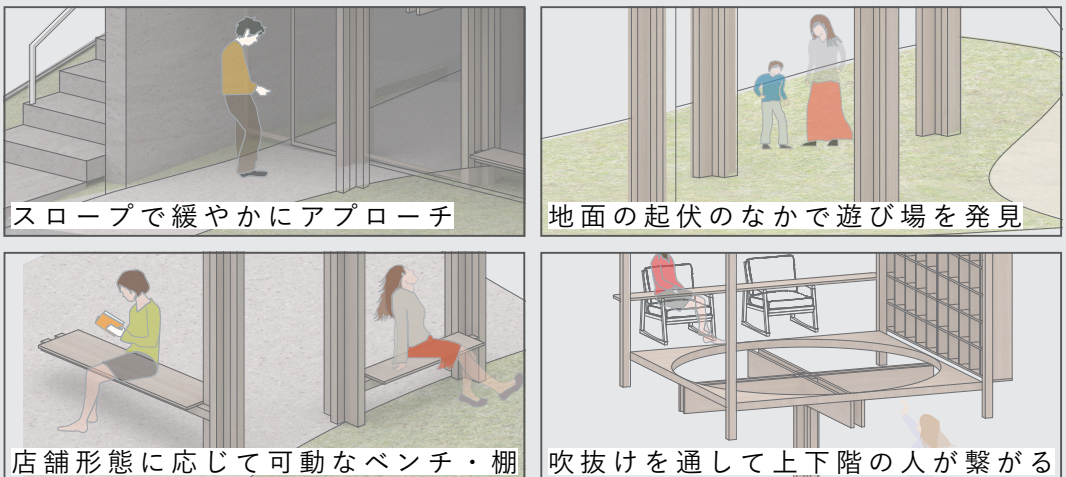
隠岐の島の雄大な「建築・人・大地」の延長にある交流施設



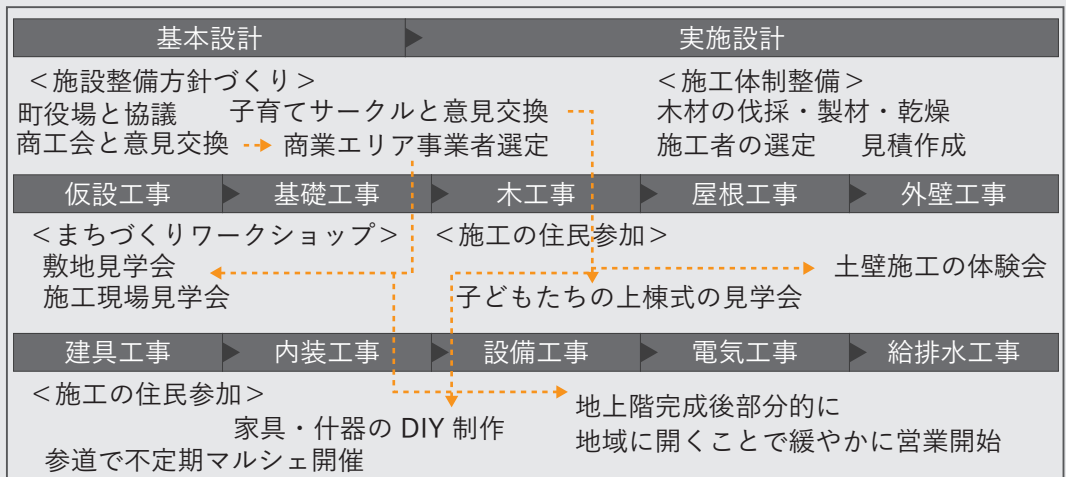
【景観】海・建築・神社の有機的な繋がり



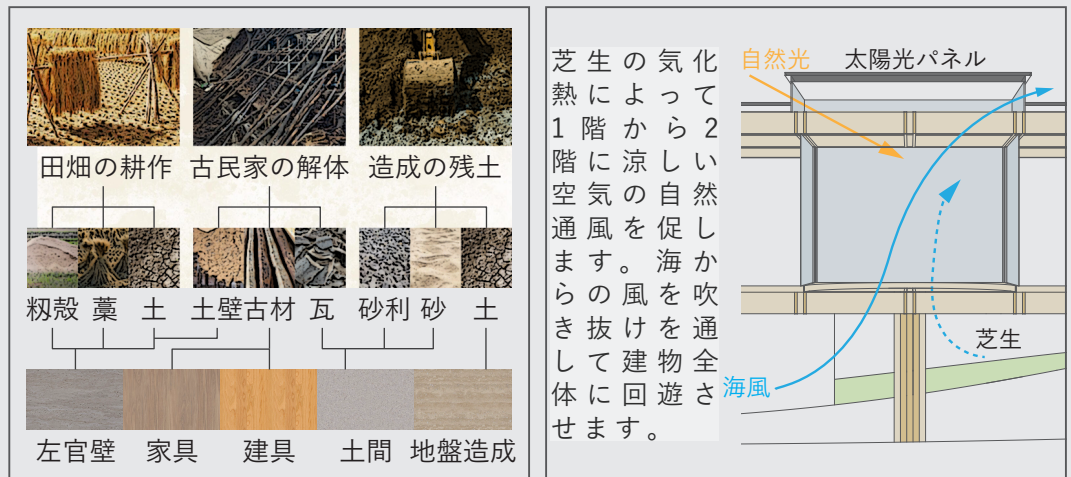
【機能・空間】多世代を繋ぐ緩やかな地形

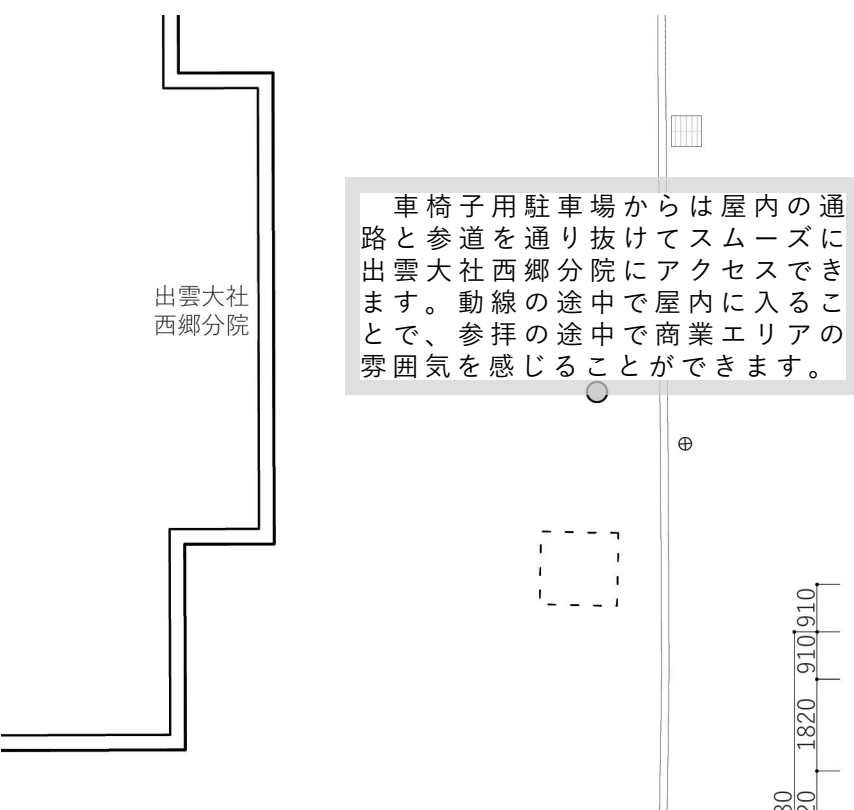


【官民連携】工程に地域住民が積極的に参加



【地産地消・省エネ】隠岐のマテリアルの再活用

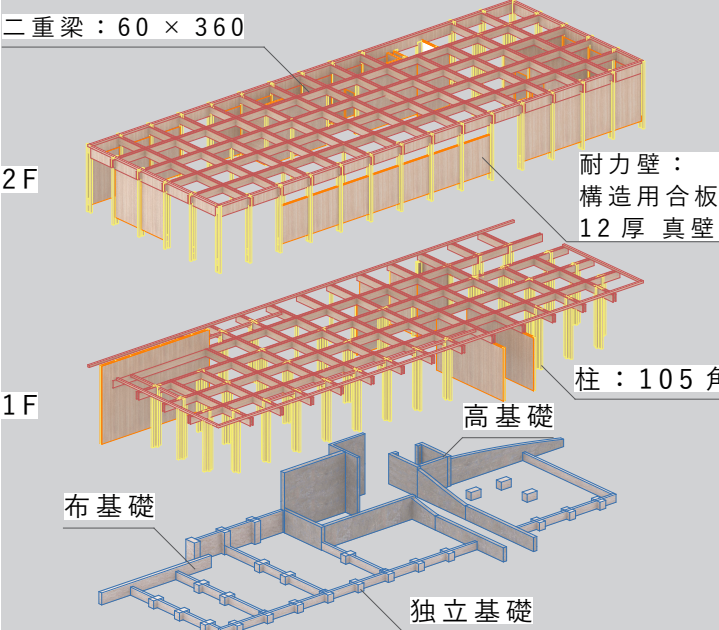
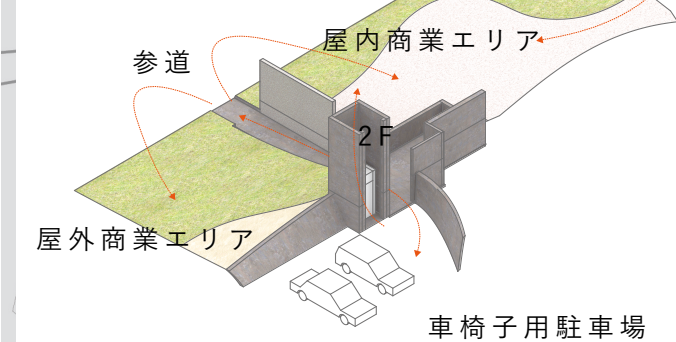




車椅子用駐車場からは屋内の通路と参道を通り抜けてスムーズに出雲大社西郷分院にアクセスできます。動線の途中で屋内に入ること、参拝の途中で商業エリアの雰囲気を感じることができます。

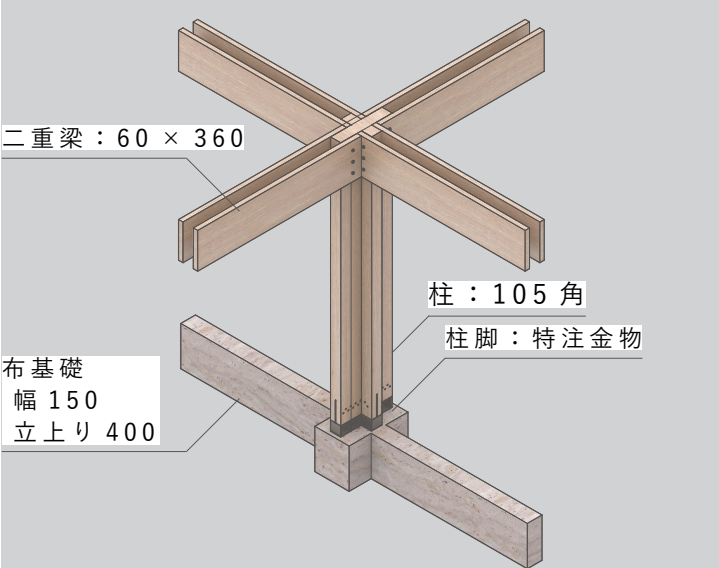
車椅子利用者や高齢者の方にも気兼ねなく利用して頂けるように、バリアフリー動線の箇所は起伏をより緩やかに設定しました。駐車場から2階へはEVを使うことで動線を短縮することに配慮し、1階は屋内外の動線の回遊性を重視しました。

<バリアフリー動線>

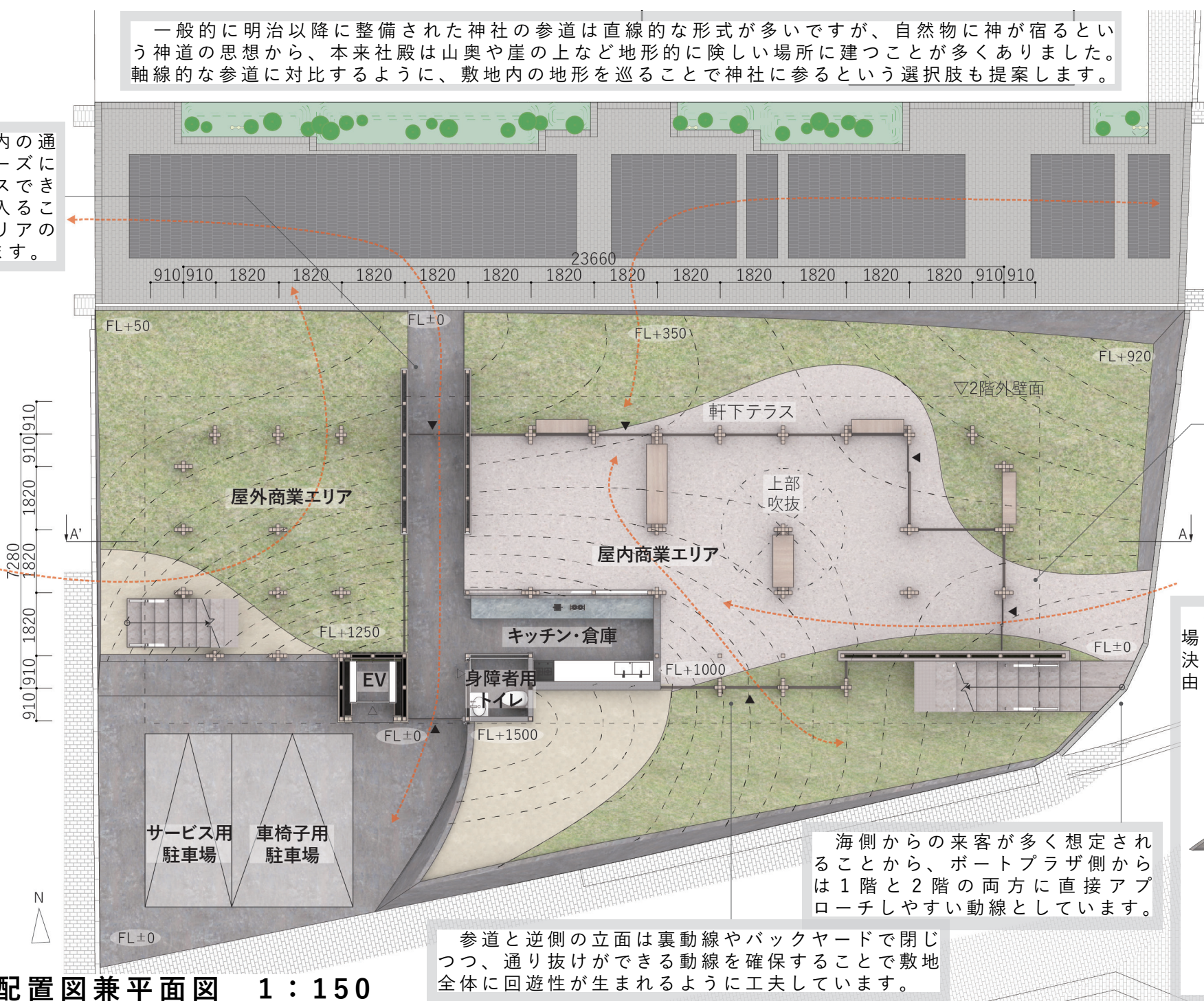


建築全体を単純な直方体とすることで工期短縮とコスト削減を目指します。基礎は地形に応じて形式を変え、擁壁を兼ねることでコンクリート量を削減します。地形の盛土は隠岐の島で発生する残土を再利用することでコストを削減します。

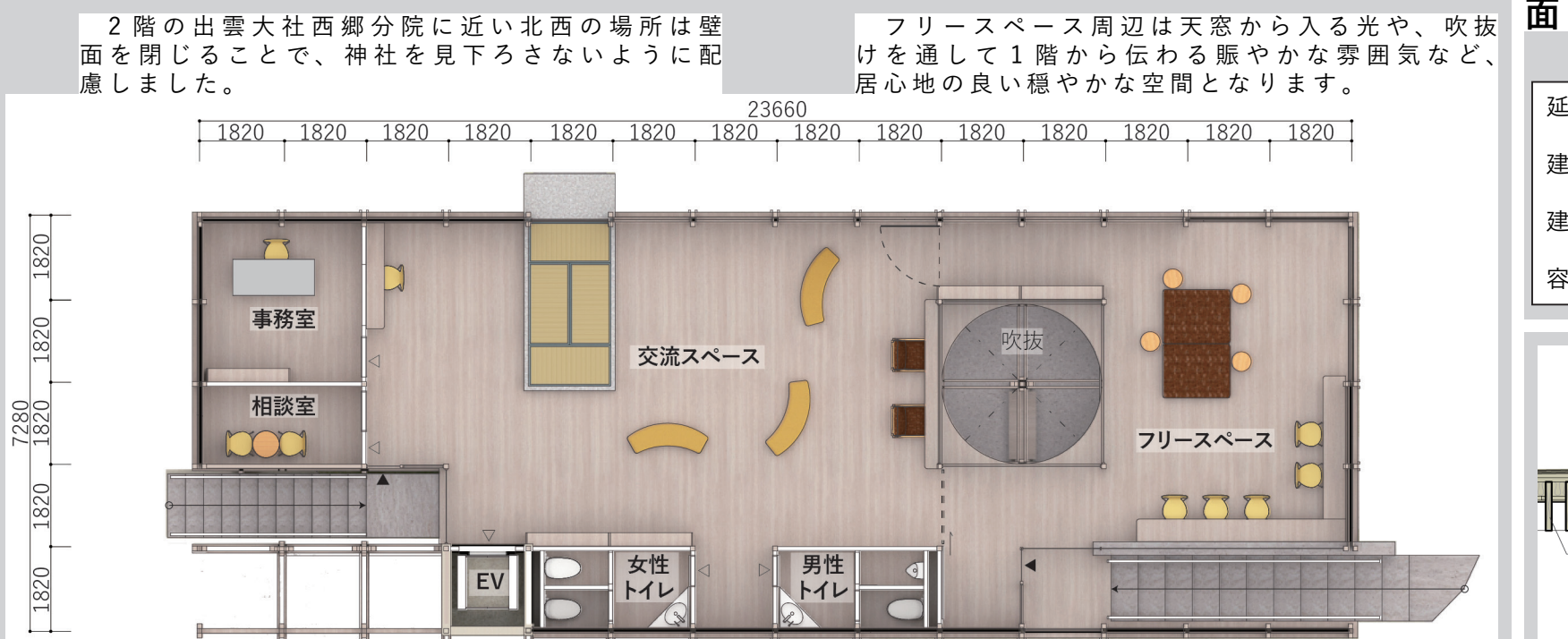
軸組は囲柱ラーメン木構造を基本構成とし1階は5本の105角柱を金物で一体化します。上部では柱と梁が立体交差することで剛性を確保し、耐力壁に頼らない木質ラーメンを形成します。



プレキャストせず規格材同士をボルトで繋ぐ構成とすることで腐朽した材は交換することができ、更新性を向上することを目指します。



配置図兼平面図 1:150

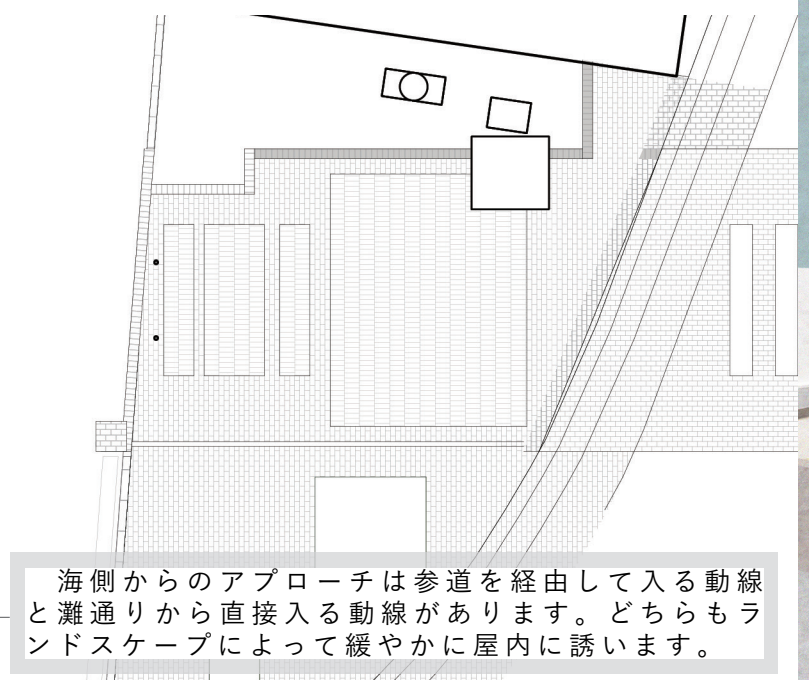


2F 平面図 1:150

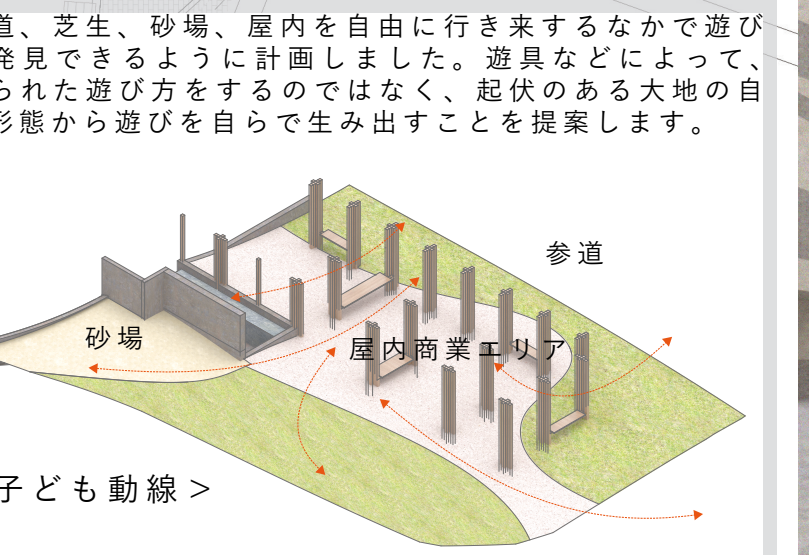
2階は1階に比べて少し外観は閉じた設えとすることで、1階の開けた雰囲気と対照的に穏やかな空気感で交流できる場所を提案しています。海への眺めや、吹抜けと天窓を通した1階との繋がりなど、部分的に開くことで象徴的な風景を切り取ることができます。小上がりの畳スペースを舞台のように設えたり、吹抜けと交流スペースの間を可動間仕切りで区切ったり、フレキシブルな利用方法に対応できるように想定しています。



A-A' 断面パース 1:150

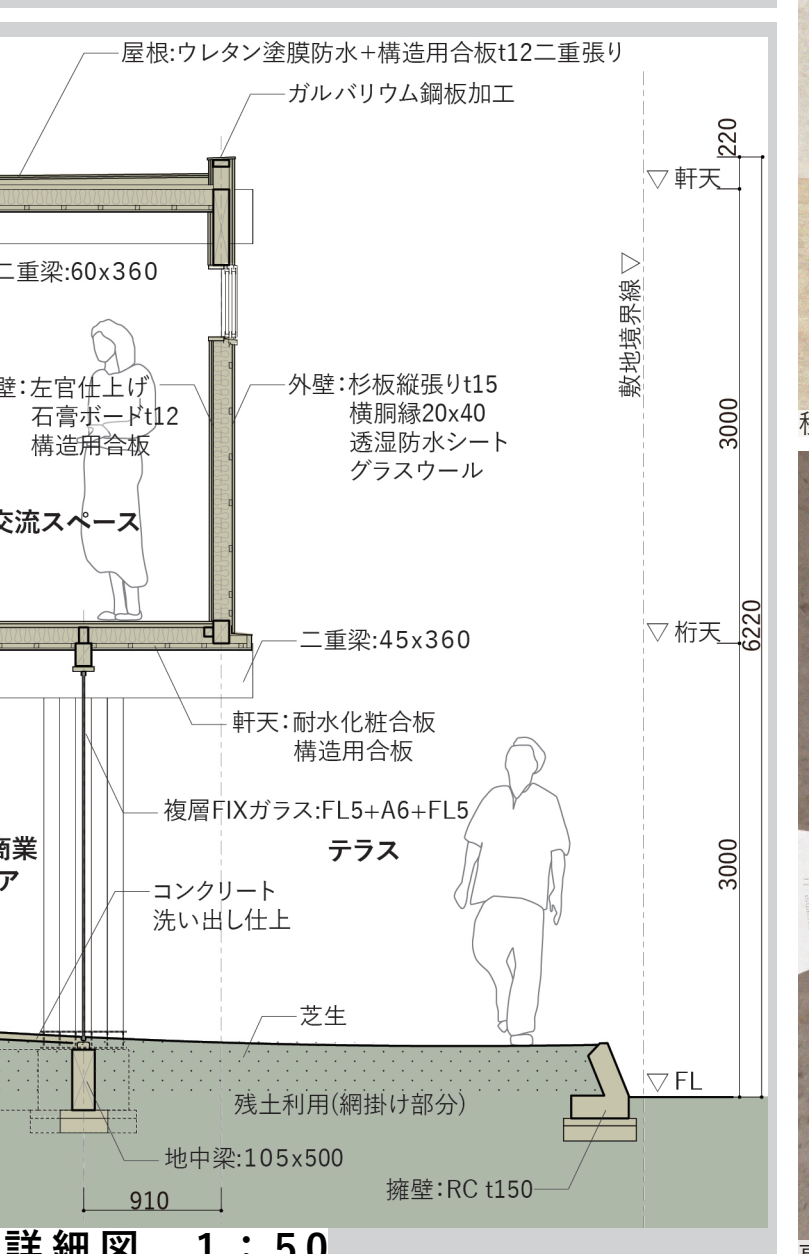


海側からのアプローチは参道を経由して入る動線と灘通りから直接入る動線があります。どちらもランドスケープによって緩やかに屋内に誘います。



<子ども動線>

面積表
延床面積: 354.42 m ²
建築面積: 242.07 m ²
建蔽率: 51.28 %
容積率: 75.08 %



断面詳細図 1:50



南側はバックヤードがあるため閉じつつ部分的に開き風景を取り込みます。



東側は港からアプローチ動線が交錯しないように1階と2階で分けました。



移動できる什器によって様々な使い方に対応できるように設えました。



東側のエントランスの横の壁面は暮らしや観光の案内板を掲示します。